



化学療法の点滴を受けられる患者さんへ

点滴中の注意点

化学療法の点滴は、血管から漏れると、痛み、発赤、腫れを生じることがあります。潰瘍、壊死を引き起こす化学療法の点滴もあり、その場合は処置が必要になります。

点滴の血管漏れを防ぐため、患者さんには以下のことにご協力をお願いします。

- トイレは事前にお済ませください。
- 移動するときは、お声かけください。
- 薬液が漏れないように、点滴の入っている部位を安静にしましょう。
- 針が入っている周囲に、以下の症状が現れたら直ちにお知らせください。
・痛み ・腫れ ・発赤 ・その他の症状、また点滴の落ち方が悪いとき

血管からの漏れを防ぐため、看護師は以下のことを行っています。

- お薬の種類により、15～60分毎に針が入っている周囲を観察します。
- 患者さんが移動するときは、移動前後に針が入っている周囲を観察します。
- 異常が生じた場合、以下の手順で対処します。
・直ちに点滴を止めて、医師に連絡をとります。
・お薬の種類や症状により、必要な処置を行います。

わずかな漏れの場合は数日経ってから症状が現れることもあります。

治療後2～3日は針が入っていた周囲を観察してください。痛み、腫れ、発赤、熱感などの症状が現れたら、病院に連絡してください。必要に応じて受診していただくことになります。

ご不明な点は担当医・薬剤師・看護師に遠慮なくご相談ください。

ご自宅へ戻られてからの注意点

抗がん剤の点滴後はしばらくの間(治療後約2日間)、尿や便に抗がん剤の成分が残ります。直接触れても健康に害を及ぼすことはありませんが、ご家庭でも次の対策をお取りいただくと安心です。

- 尿が飛び散らないように、男性の方も便座に腰掛けて排尿をしてください
- 排泄後は便座のフタを閉めてから、2回流すようにしましょう
- 尿がこぼれた場合は、トイレトペーパーできれいに拭き取ってトイレに流しましょう
- 排泄物(吐物・便・尿)・おむつ・ストーマ用品の片付けは手袋を着用して行いましょう
- トイレの後には、石鹸を使って手を洗いましょう

ご自宅へ帰られてから変わったことがありましたら、病院へ連絡してください。



お電話では以下のことを確認します！

- ・氏名
- ・診察券登録番号
- ・受診科
- ・主治医
- ・現在の状態
- ・いつ頃からどんな症状か

市立青梅総合医療センター

TEL:0428-22-3191(代表)

〈月～金〉

8:30～17:00 各診療科外来

〈土・日・祝日・夜間〉

17:00～8:30 救急外来

